

昭和47年高松塚古墳壁画発見時頃の新聞記事にみられる古墳及び壁画の状況

（本資料は、当時の墳丘や壁画状況、あるいは、それに対する担当者のコメント等が掲載された新聞記事のうち主要なものを集成したものであり、網羅的・悉皆的なものではない。）

3月26日 壁画発見の報道発表

3月27日 毎日新聞（夕刊）

- ・ 古墳近景写真（当時の墓道部周辺の状況が分かる写真）

4月4日 読売新聞

- ・ 「壁画の大敵、黒カビ発生 高松塚古墳」「外気で増殖の恐れ」
橿原考古学研究所の調査（東文研江本調査研究員による生物調査）により、壁画保存上大敵とされている黒カビ（クラドスポリウム・ヘルバルム）が発生し、今後さらに増殖する恐れがあることが明らかになった。

4月4日 産経新聞

- ・ 「ポツカリと口をあげ、1300年ぶりに光を吸い込む石かくの入口」の写真（発掘調査区と石室の関係等が分かる写真）

4月5日 東京新聞（夕刊）

- ・ 「外気に弱く、カビも」

4月6日以降、文化庁管理

4月6日 日経新聞（夕刊）

- ・ 「保存状態は良い」「肉眼ではカビはない」
東文研岩崎修理技術研究室長「二・七ミリの厚さのしっくいまるで板状の酒かすのように浮き上がっていた。」のコメントあり。

4月6日 朝日新聞（夕刊）

- ・ 「壁の状態悪い」「座長語る 保存方法検討する要」

4月6日 東京新聞（夕刊）

- ・ 「どうする“飛鳥人の遺産” 現地調査団五氏に聞く」
東文研岩崎修理技術研究室長「壁画のはがれかかっている部分は早急に接着剤で落ちないように処置せねばならない。接着剤は一般に使われているようなものではなく、合成樹脂の特殊なものだ。」のコメントあり。

4月7日 読売新聞他

- ・ 「明日香壁画 万全の恒久保存策」「まず樹脂液で固定」
総合学術調査以前の応急処置として「はげ落ちる恐れがある壁面に合成樹脂液を注入して固定する。」

4月7日 毎日新聞

- ・ 「頭痛い「はく離」「雑菌」」
東文研登石保存科学部長「(壁画発見時の榎考研による) 応急措置は適切だった。」

4月14日 毎日新聞

- ・ 「やっぱり細菌が」「壁画古墳にカビのおそれ」「開封後に繁殖か」
応急保存対策調査会による調査速報（同年7月の同調査会中間報告において正式報告）